

セリンクロ錠 10mg

【この薬は？】

販売名	セリンクロ錠 10mg Selincro tablets 10mg
一般名	ナルメフェン塩酸塩水和物 Nalmefene Hydrochloride Hydrate
含有量（1錠中）	ナルメフェン塩酸塩水和物 10.959mg （ナルメフェン塩酸塩として10mg）

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」

<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、飲酒量低減薬と呼ばれる薬です。
- ・この薬は、オピオイド受容体に作用して、お酒を飲む量を減らします。
- ・次の目的で処方されます。

アルコール依存症患者における飲酒量の低減

- ・お酒を飲む量を減らす意思のある患者さんが、服薬遵守及び飲酒量の低減を目的とした心理社会的治療*を受けながらこの薬を使用します。

※服薬遵守及び飲酒量の低減を目的とした心理社会的治療：

自分の気持ちや行動をコントロールしてお酒を飲む量を減らし、より良い社会生活を送るための治療方法で、日記による方法、動機づけ面接法、認知行動療法、ブリーフインターベンションなどがあります。

- ・この薬は、自己判断で使用を中止したり、量を加減したりすると本来の効果が得られないことがあります。指示どおりに飲むことが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にセリクロ錠に含まれる成分で過敏症のあった人
- ・オピオイド系薬剤（鎮痛、麻酔）〔モルヒネ（MS コンチン等）、フェンタニル（フェントス等）、フェンタニル・ドロペリドール（タラモナール）、レミフェンタニル（アルチバ等）、オキシコドン（オキシコンチン等）、メサドン（メサペイン）、ブプレノルフィン（ノルスパン等）、タペンタドール（タペンタ）、トラマドール（トラマール等）、トラマドール・アセトアミノフェン（トラムセット）、ペチジン、ペチジン・レバロルフアン（ペチロルフアン）、ペンタゾシン（ソセゴン等）、ヒドロモルフォン（ナルサス等）〕を使用中または使用中後1週間以内の人
- ・オピオイドの依存症または離脱の急性症状がある人

○次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・アルコール離脱症状（幻覚、けいれん、振戦せん妄、ふるえ、発汗、睡眠障害など）があらわれたことのある人
- ・肝臓に障害のある人または腎臓に障害のある人
- ・死にたいと強く思ったり考えたりしたことがある人
- ・高齢の人

○この薬には併用してはいけない薬〔オピオイド系薬剤（鎮痛、麻酔）（ただし、緊急事態により使用する場合を除く）（モルヒネ（MS コンチン等）、フェンタニル（フェントス等）、フェンタニル・ドロペリドール（タラモナール）、レミフェンタニル（アルチバ等）、オキシコドン（オキシコンチン等）、メサドン（メサペイン）、ブプレノルフィン（ノルスパン等）、タペンタドール（タペンタ）、トラマドール（トラマール等）、トラマドール・アセトアミノフェン（トラムセット）、ペチジン、ペチジン・レバロルフアン（ペチロルフアン）、ペンタゾシン（ソセゴン等）、ヒドロモルフォン（ナルサス等）〕や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などに合わせて、医師が決めます。

通常、成人は1回1錠を、お酒を飲み始める1～2時間前に飲みます。ただし、1日1回までとします。なお、1日量は2錠を超えないようにしてください。医師の指示どおりに飲んでください。

●どのように飲むか？

錠剤を割ったり砕いたりしないで、そのままコップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

薬を飲まずにお酒を飲み始めた場合には、気が付いた時点ですぐに飲んでください。ただし、飲酒終了後には飲まないでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・ 注意力障害、浮動性めまい、傾眠などが起こることがあるので、自動車の運転など危険を伴う機械の操作には注意してください。
- ・ この薬との関連性は明らかではありませんが、死にたいと強く思ったり考えたりするなどの症状があらわれることがあります。このような症状があらわれた場合は、医師に相談してください。
- ・ 別の病気で手術などをうける必要があると事前にわかる場合には、手術等で鎮痛または麻酔を目的としたオピオイド系薬剤を使用する可能性があるため、事前にこの薬を使用していることを医師に教えてください。
- ・ 妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・ 授乳中の人は、授乳を中止してください。
- ・ 他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を処方され、使用する可能性があることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい主な副作用と、主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの主な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。



このような症状があらわれた場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

主な副作用	主な自覚症状
浮動性めまい ふどうせいめまい	宙に浮いた感じ、ふらつき
傾眠 けいみん	刺激がないと眠ってしまう
悪心 おしん	吐き気、胸やけ、胃がむかむかする

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、主な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	宙に浮いた感じ、ふらつき
頭部	刺激がないと眠ってしまう
口や喉	吐き気
胸部	胸やけ
腹部	胃がむかむかする

【この薬の形は？】

PTP シート	
形状	円形のフィルムコーティング錠 
直径	7.1mm
厚さ	3.9mm
重さ	155mg
色	白色～微黄白色
識別コード	S10

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ナルメフェン塩酸塩水和物
添加物	結晶セルロース、無水乳糖、クロスポビドン、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール 400、酸化チタン

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。
 製造販売会社 大塚製薬株式会社 (<http://www.otsuka.co.jp>)
 医薬情報センター
 電話番号：0120-922-833
 受付時間：月～金 9：00～17：00
 （土、日、祝日、休業日を除く）